



ごあいさつ

桜の花が咲く季節となりました。

左の写真は2007年に蹴上のインクラインで撮った写真です。桜の花を見るとなんとなく心も温かくなってきます。この4月号が皆様の手に届く頃には各所で満開になっていることでしょう。

新年度を迎え、桜の開花のようにパーッといきたいですね(笑)

スポーツ株式会社 代表取締役 米田 明

連載企画 “一丁啮” が行く！ 第27回：そよ風が...

『ちょっと風を感じられるようになりました』と、そんな会話が聞こえるようになってきました。ほとんどの企業が昨年からの不況のなかで、全くの無風状態を感じてきました。

しかしここに来てやっと、そよ風が吹きかけているという感じがしてきました。

特に製造業ではそんな傾向が強いようです。もちろん、業態などによって差はありますが、何人かの製造業の経営者の方とお話をしましたが、昨年より良くなってきたと異口同音におっしゃっています。

昨年12月14日に日銀が発表した12月の短観(企業短期経済観測調査)によると、全産業で9月△38が△32となり6ポイント改善しました。特に中小企業製造業は△52が△40と12ポイントも改善しました。また、中小企業家同友会が実施した2009年10～12月期の景況調査によると、業況水準DIは全業種で7～9月期に比べて3ポイント好転し、製造業においては18ポイントと大幅に改善しています。この昨年後半の業況水準の好転が、今年になって実感として現れてきたということではないでしょうか。

現時点ではまだ2010年1～3月期の調査報告は出ていませんが、前期に比べて更に好転しているのではないかと期待します。

景況感はどうも心理的な面が大きような気がします。景気が悪い悪いと言われると、実感よりも数倍悪く感じてしまいます。身も心も縮こまってしまふような気がするのは私だけでしょうか。それ故に時としてマスコミの無責任な報道に腹立たしく思うことさえあります。

ですので、生の声として「そよ風が吹いてきた」という声を聞くと無性に嬉しくなります。暖かくなって桜の花が開花するのと同期して、景気の花も開花することを願いたいと思います。

今日はコンピューターの心臓、車のエンジンに相当する中央演算処理装置 (CPU) についてお話ししましょう。

CPUの動作周波数(クロック数)の高さでコンピュータの性能がほとんど決まっていたのは過去の話で、ここ5年ほどはその理屈が通用しなくなってきました。

実は動作周波数は3GHzで頭打ちしてしまっているのです。これ以上、周波数を上げると発熱しすぎて冷却が追いつかないのです。

そこでコア(核となる演算部分)を複数持つように改良されてきました。

最近では2つ、ないしは4つのコアを持つCPUが主流で、ハイエンド向けでは6つ、ないしは8つのもの存在するようです。



皆さんがお使いのコンピュータにCPUにはコアがいくつ搭載されているのでしょうか?

[Ctrl]+[Shift]+[Esc]を押してみてください。Windowsタスクマネージャが起動しますので、「パフォーマンス」タブをクリックします。「CPU使用率の履歴」という欄に折れ線グラフが表示され、この折れ線グラフの数が搭載されているコアの数です。

但し、HTテクノロジー(ハイパースレッディング・テクノロジー)に対応しているCPUの場合は、物理的に搭載されているコアの数×2のグラフが出ます。

このHTテクノロジーとは1つのコアで複数の処理を行う技術で、OS(Windows)は1つのコアを複数のコアと見なします。

ではインテル社の最新の製品である「Core i7」に注目してみましょう。Core i7はコア数が4つでHTテクノロジーに対応していますので、擬似的に8つのコアがあることになります。噛み砕いて言えば、1回のクロックで同時に8つの処理が実行できるのです。

と、コア数が多ければ多いほど良いように書きましたが、実はアプリケーションがマルチコアに対応していなければあまり効果は期待できず、対応されているアプリケーションの数も多くありません。

そういう現実から、Core i7には新しい機能としてターボ・ブースト・テクノロジーというのが追加されています。これは必要に応じて使わないコアの電源を落とし、その分動作周波数を上げるという技術です。

もうひとつ一新された部分があります。

CPUとチップセット(マザーボード)間の伝送路です。Pentium IIの時代に採用されて以来、10年以上使われてきたFSB(Front Side Bus)が廃止され、新たにQPI(Quick Path Interconnect)となりました。これによってデータ転送速度が高速化し、配線が単純化しました。あまり詳しく解説を書くとは面白くなりそうなので割愛しますが、この部分は革新的な変更だといえると思います。

読者 訪問



訪 問 先

会社名：株式会社 ダイカ
 業務内容：呉服・帯地・和装製品・宝石・バッグ卸
 住所：〒602-8146
 京都市上京区猪熊通丸太町上ル
 面談者：水池 亮 さん
 TEL：075-841-31111 FAX：075-801-2078

第3回目は株式会社ダイカさんにお邪魔し、専務取締役の水池さんにお話を伺いました。まず、ダイカさんのお仕事の内容にお聞きしました。

昭和30年に現会長が下京区で独立創業され、昭和40年に法人化するとともに現在地に移転されました。呉服や帯を地方の小売店に卸売りをすることをメインに、東北、北海道を中心に営業を展開されています。

もともと会長が勤務時代に東京以北を営業担当とされていたことからどんどん北に販路が広がり、今では北海道に5店舗（札幌、旭川、函館、苫小牧、三石）を有するようになっておられます。最近では着物離れが進んでおり、呉服以外にも宝石、バッグや洋品も取り扱うようになってきているとか。

年間40回以上にも及ぶ催事を中心に営業展開されており、商品の在庫管理をしっかりする必要があって1994年からオフコンを導入して商品管理をされてきました。

2000年問題が迫ってきた1999年、パソコンへの切り替えを機にサポートとのお付き合いが始まりました。

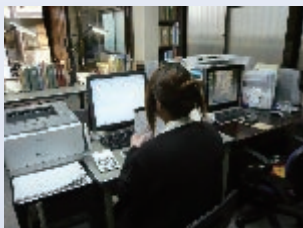


サポートでは当初、MS-DOSでの販売管理システム『ごぶくQ』（はんばいQの呉服卸業対応版）を導入させていただき、2005年にWindows版に更新していただきました。単品管理の対象となる6,000点を含む10,000点にもものぼる商品の在庫管理をリアルタイムに各店舗間（京都・札幌・苫小牧）で行うために、①バーコードでの単品管理、②VPN接続によるリアルタイムネットワークの構築などに対応したシステムをご提供しました。

水池さんは「今やコンピュータは不可欠。各店舗の売上や在庫状況がすぐわかるし、必要な営業資料も出したいときにらせる。大変重宝していますよ。」とおっしゃって下さいました。

また、「コンピュータはごぶくQだけではなく、案内状やパンフレットの作成、それに各種データ処理にも使っています。専門家がないのでいろいろな相談やアドバイスなど、なんでもサポートさんに聞けばいいと思っています」と、サポートのワンストップサービスに期待を寄せていただいております。

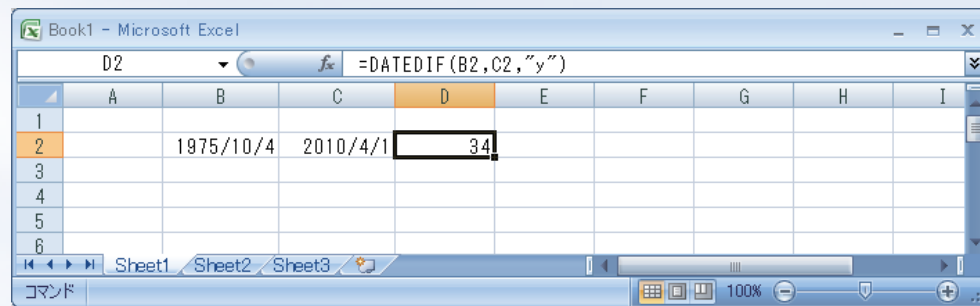
経営環境が厳しい呉服業界にあって、伝統文化を絶やすことなく京都らしさを日本中にこれからも発信していただくために、私たちが少しでもお役に立てていれば嬉しいと思いつつ同社をあとにしました。



Excel ワンポイント講座



今回はあまり知られていない関数のお話です。ある日付からある日付までの期間を計算して表示する関数です。関数の書式は =DATEDIF(元の日付, 計算する日付, 計算結果の表示方法) です。



上の例で説明しますと、関数書式は =DATEDIF(B2,C2,"y") となっており、セルB2の1975/10/4からセルC2の2010/4/1までの期間を計算して「年数」を表示しています。計算結果の表示は年数なら「y」、月数なら「m」、日数なら「d」を指定します。また今日までの計算なら =DATEDIF(B2,today(),"y") と、計算する日付に today() を指定します。計算結果表示を「何年何ヶ月」とか「何ヶ月何日」と表示させようと「ym」とか「md」とかにすると間違った結果を表示するというバグがあり現在のバージョンでは関数一覧には出てきません。しかし、年数計算は問題はないようで、勤続年数や年齢の計算には便利な関数です。

サポート TOPICS

- 4月度「SBCセミナー」(共催：中小企業診断所) 4月20日(火) 13:30～16:00頃
 - テーマ① 行列が出来る?! ITトラブル事例研究 ～こんなとき、あなたならどうする?～
講師：岡田 一毅 弁護士 (赤井・岡田法律事務所)
 - テーマ② パソコン活用の過ちをチェックしよう ～一日中パソコンの前に座っていませんか?～
講師：米田 明 (サポート株式会社 代表取締役)



- 3月18日(木)「SBCセミナー」(共催：中小企業診断所) 「知ってあきたいパソコン活用」(講師：デジック上野社長) ～中小製造業でムリ/ムダをなくす方法～ をキャンパスプラザで開催し、4社5名の方々にご参加いただきました。有り難うございました。